

ART

Taito-ku
Art Project
Archive
2008→2017

平成26年度

企画

- 谷中妄想カフェ～ちようちんもってちよっとそこまで～
- 砂の上の企画 特別公演「おこめ」
- 創作人形劇「谷中・百鬼夜行絵巻」
- サビザマ
- 第2回!!街の音プロジェクトin かつば橋～道具de
アンサンブル～(P56)

短評

提灯を片手に夜の谷中の街を散策しながらパフォーマンスを体験する谷中妄想カフェや、秋田のコメ農家出身の少女「おこめ」の半生を描いた演劇など、26年度は特に個性的な企画が採択されました。錆の美しさ・儚さをテーマにした『サビザマ』では、アートの展示だけでなくオークションや街歩きツアー、錆をモチーフにしたお菓子の提供などのイベントも開催。企画者の発想力に驚かされる1年でした。

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



遭遇します。最終地点である「貸原っぱ音地」では、提灯のあかりを消して、妄想と現実が入り混じった不思議な約1時間のツアーを振り返りました。



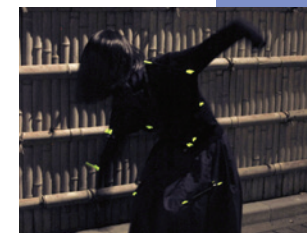
当日の様子

企画者からのコメント

支援制度を受けたことにより、新たな拠点やエリアでの展開が可能となりました。また開催エリアが変わったことで、地域との新たなつながりも生むことができました。そして、若手演出家の起用や若手アーティストとの協働の機会となり、その後の活動にも繋がるネットワークを形成することもできました。企画終了後も団体としての活動は継続しております。企画に関わったメンバーたちは、本企画で得た経験や縁を活かしながら、引き続き谷中界隈を拠点に、演出家やアーティスト、デザイナーなどとして多岐に活動を展開しています。



当日の様子



当日の様子



チラシ

Title

谷中妄想カフェ

～ちようちんもってちよっとそこまで～

主催者

一般社団法人谷中のおかって

開催期間

2014.08.16—17

会場

谷中3丁目界隈

“妄想ナビゲーター”が夜のまちをご案内

『谷中妄想カフェ』は、提灯を片手に夜のまちを「妄想ナビゲーター」と一緒に散歩するツアー企画です。古い住居やお寺の間など、谷中独特の路地がコースになっています。道中で出会うささやかなパフォーマンスや演出が、谷中の日常風景に幻想的なひとときをもたらし、夢かうつつかと参加者の「妄想」をかき立てます。2011年と2012年に実施し、多くの来場者が集まる企画となりました。またこの企画を通じて、「妄想ナビゲーター」や道中に出没するパフォーマー、受付や最終地点でおもてなしをする役割など、さまざまな関わり方を募ることにより、アーティストや地域内外の社会人、学生がスタッフとして参加交流する機会にもなっています。今回は新しいエリアの開拓という新たな試みを掲げ、ルートコーディ

ネーターとして若手演出家を招待。演出家と共に新たなルートと散歩中のしかけを模索し、HAGISOを拠点とした周辺地域を散歩コースに設定しました。そして公園や路地、個人宅、店の軒先などといった新しいエリアの魅力を引き出し、参加者に散歩を通じて谷中界隈のまちの魅力を体感してもらい機会になりました。また同じ谷中に拠点を構えるHAGISOや、周辺エリアともこの企画を通じて関係を築くことができ、地域の中で新たなつながりを生み出す貴重な機会にもなりました。

【開催状況】

『谷中妄想カフェ』は、各回4名限定の少人数で実施しました。それはナビゲーターとのコミュニケーションや、道々で遭遇するささやかな演出によって

参加者の妄想を引き出すためです。参加者からは、感覚が開かれ妄想と現実の区別がつかなくなった、幻想的な体験になったという声が多数聞かれました。また、これまでの妄想カフェを経験したことのある参加者からも、新しいエリアや演出により、新鮮な体験になったという感想をいただきました。散歩ツアーは、集合場所である築60年以上の木造アパート「萩荘」をリノベーションした複合文化施設HAGISOのテラス席からスタートします。そして参加者には案内を担当する「妄想ナビゲーター」から一人ひとりずつ提灯が配られ、光の当て方などのレクチャーがなされます。谷中エリアならではの細い路地を、ナビゲーターの案内のもと歩き進めます。すると、薔薇の花束を持った青年と遭遇したり、道ばたで菊の花びらで占いをする女性と出会ったり、古い住居のペランダからトランペットを演奏する青年を見かけたりと、さまざまな風景に



HAGISO

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



Title
特別公演「おこめ」

主催者
砂の上の企画

開催期間
2014.08.28—31

会場
東京キネマ倶楽部



東京キネマ倶楽部

おこめとぐ音、生きる音。 あなたと食べたい食卓のファンタジー

「砂の上の企画」は、立命館大学の「劇団西一風」の出身者を中心に立ち上げられた演劇ユニットで、2008年から活動を開始しています。スズキ・トレーニング・メソッドをもとにした身体性を駆使した台詞回しと、抒情性豊かな言葉とイメージの奔流、圧倒的な演劇カタルシスを掲げ、通常の劇場空間では味わえない演劇体験にこだわったユニークな会場を舞台に作品づくりを行っています。特別公演「おこめ」は、2009年に砂の上の企画の第2回公演として発表した公演の再演となりますが、第5回「したまち演劇祭in台東」の参加作品として、通常の単体公演では行えない様々な仕掛けを用意してバージョンアップした内容としてお届けしました。

【開催状況】

これまで通常の劇場空間では味わえない演劇体験にこだわり続けてきた砂の上の企画が、本公演に選んだ会場は、大正浪漫のオペラハウスを再現した元グランド・キャバレーである「東京キネマ倶楽部」です。一步足を踏み入ると、ピロードの調度品が匂い立つ、吹き抜け3階建てのラグジュアリーな空間がお客様を迎えます。『おこめ』は、空想と幻想、夢とうつつを吹き抜けるファンタジー作品で、秋田のコメ農家出身の少女おこめの波乱万丈の半生を描きます。物語は、秋田のコメ農家にはじまり、白銀の小樽、寿司屋乱立の築地、東京タワーのてっぺんからスカイツリーを飛び越え、寿司ネタ泳ぎ踊る海の底から、作物の種子眠る地中の奥深くまで、昭和のかをり漂うスナックから吹くひと粒

のお米の息吹が、真夏の清涼な風に乗り、縦横無尽に世界を駆け巡ります。今回の公演のために結成されたおこめ・ザ・バンド「さんずのリバーサイド」による生演奏や、劇中の様々なシーンで俳優が自ら昭和の名曲にのせて歌い・踊る仕掛けは、作品の世界に引き込んでいく重要なポイントであり、元グランドキャバレーという巨大空間ならではのダイナミックな演出となりました。また、作品が食にまつわる内容であることから、お料理に舌鼓を打ちながら、美酒と音楽の生演奏とお芝居に酔いしれるスタイルを目指しました。気鋭のフードクリエイター・ikuraさんにお願ひし、本作からインスピレーションを受けて考案された特別メニューを開演前に出演者の給仕で提供しました。主人公おこめの出身地にちなみ、秋田の農家から取り寄せたお米などの料理や台東区内にある店舗の料理など、普段演劇を見ない層にも楽しんでいただける

仕掛けを用意しました。過去最大の来場者数で2009年に公演した『おこめ』から2倍増という結果は、この新たな試みが成功したというひとつの成果であり、今後の劇団活動を続けていく上で大きな意義があった公演となりました。



会場内

企画者からのコメント

劇団にとって初めての「演劇祭参加・助成申請・過去作の再演」という試みを行った作品であり、ハードルは高かったですが、助成金による金銭面での支援はもちろん、アドバイザーの方々や区からの様々なアドバイス・ご協力を得ることで成功させることが出来ました。また、この企画でのご縁により、台東区のしたまち演劇祭や、荒川区主催の演劇公演など、外部からの依頼による演出作品を創作する機会に恵まれています。



配布物



料理



チラシ

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



Title

創作人形劇
「谷中・百鬼夜行絵巻」主催者
鈴木愛子開催期間
2015.02.11会場
全生庵

全生庵

妖怪たちのドタバタ騒ぎ。 大人も子どもも、お寺で一緒に人形劇を観よう！

創作人形劇のテーマは、「モノの妖怪」です。かつて日本では、長い年月を経て古くなった道具には魂が宿り、妖怪になると信じられていました。そしてそれらの妖怪を付喪神(つくもがみ)と呼びました。付喪神は昔からいろいろな物語に描かれ、日本の古い絵巻物で、妖怪たちが夜な夜な跳梁抜鉤(ちょうりょうばっこ)する様を描いた「百鬼夜行絵巻」にも、たくさん登場します。この「百鬼夜行絵巻」に登場する付喪神たちを題材にした、大人も子どもも楽しめるオリジナル人形劇の公演を、ひょっこりひょうたん島で知られる「人形劇団ひとみ座」や「デフ・パペットシアターひとみ」で活躍をする若手メンバーが中心となって、企画・挑戦しました。「人形劇団ひとみ座」は、太平洋戦争が終わってまもない1948年、鎌倉アカデミアに集まった

若者が中心になって演劇活動を始め、やがて人形劇の専門劇団として発足し、テレビ時代の到来と共に「ひょっこりひょうたん島」・「ネコジャラ市の11人」・「伊賀の影丸」といった作品を世に送り出し、現在も国内外で活躍している団体です。「デフ・パペットシアターひとみ」は、1980年に発足。名前のDEAF(聞こえない)が示すように、結成当初から、ろう者と聴者が協同して公演活動を行っています。音声言語に頼らないその表現方法は国内外で高い評価を得ています。

【開催状況】

今回、人形劇の舞台となるのは、圓朝まつりや山岡鉄舟ゆかりの寺として知られる、台東区谷中の全生庵です。「牡丹燈籠」などの怪談話で有名な落語家三遊亭圓朝のお墓があり、夏

には圓朝の幽霊画コレクションを公開しています。また、この界限は古い建物も多く、いかにも妖怪たちが棲みやすい環境です。人形の妖怪たちにまぎれて、ホンモノの妖怪たちに出会ってしまうような雰囲気があります。今回は、全生庵さんのご協力もありお寺で人形劇という珍しい取り組みを創作人形劇のテーマにぴったりの会場で実現することができました。創作人形劇の内容は、付喪神たちと全生庵の和尚、お寺に仏像を盗みに来た泥棒、谷中銀座のコロケ屋のおばちゃんといった登場人物たちが、全生庵だけでなく谷中のまちを舞台に繰り広げるドタバタ劇です。当日は、近所の子どもたちがたくさん参加してくれたこともあり、悪い妖怪との戦いでは子どもたちが応援をするなど、会場が一体となる楽しい空間となりました。約1時間の公演終了後には、出演者による登場した人形の紹介を行いました。巧みな人形遣いの技を

目の前で実際に披露する姿に、観客の方が釘付けになっている姿が印象的でした。また、今回の人形劇では、BGMとしてただ音楽を流すだけでなく、様々な道具や楽器を使って、その場で生の効果音をつけていきました。公演終了後に楽士がその様子を再現すると観客から驚きの声があがりました。人形劇公演・実演コーナーともたくさんの方に喜んでいただき、大盛況のうちに終えることが出来ました。



公演の様子

企画者からのコメント

若手が自由な発想で挑戦できる貴重な機会となりました。さらに、普段接する機会のない様々な分野のアドバイザーからのアドバイスは、非常に新鮮で刺激的でした。また他の採択されました。



公演の様子



公演後の解説



2015年2月11日(水祝) 11時/15時

会場：全生庵 (台東区谷中4-4)
料金は(税別)小学生以下は1000円 大人2000円
観劇のみは1500円 観劇後はプラス500円
お申込み・お問い合わせ：谷中・百鬼夜行絵巻実行委員会(株)
TEL 090-9155-0211
E-MAIL yokaiemaki@gmail.com
※チケットは全生庵でも取り扱っております。
主催：谷中・百鬼夜行絵巻実行委員会 <http://puppet-emaki.jp/index/>

チラシ

ART

DANCE

MUSIC

DRAMA

OTHER



展鑑賞後は、抹茶と共に提供される魅惑的なスイーツを堪能しながら、サビ談義に花が咲きました。



さび de スイーツ

企画者からのコメント

助成金を活用させていただくことで、今までにないクオリティとスケールで企画を実施することができました。また、アートアドバイザーからの確かなアドバイスを頂くことで、より深みのある企画となり、あわせて台東区のきめ細かなサポートのお陰で準備がスムーズに行えました。開催後は、DSA 日本空間デザイン賞 2015に「エンターテインメント&クリエイティブ・アート空間」部門で入選し、そして企画やイベントも継続的に実施しています。参加メンバーは、この企画での経験を活かし、現在は様々なフィールドで活躍しています。



サビオークション



チラシ



メンバー

Title
サビザマ

錆の美しさ、儚さに気づく

主催者
増沢隆樹

開催期間
2015.02.20—03.01

会場
旧平櫛田中邸

『サビザマ』は、錆の美しさ・儚さをテーマにした企画展と、様々なアプローチから錆の世界を楽しんで頂く3つのイベントから構成されています。そのうちの1つ、サビザマ展は、錆をイメージした映像・絵画・音楽などを融合させ、それらを包みこむ独特の空間で「日常の何気無い錆の美しさに気づく」という世界観を表現しています。また、さびびとツアーは、カメラ片手にちょっと目線を変えて街を巡り、錆を通じて街の新たな魅力に気付く新感覚のツアーです。さらにサビオークションは、拾ってきた錆を持ち寄り、オークションにかけるという風変わったエンターテインメント。さび de スイーツは、錆の美しさ・華やかさからイメージしたスイーツのおもてなしです。食を通し錆の楽しさを共有する新たなコミュニティの場を提供しました。

『サビザマ』は、アートの楽しさや魅力を伝え広めることを目的にスタートしました。誰もが知っている錆をベースに、気軽に参加できる様々なイベントを組み込み、多様なチャネルで発信することにより、幅広い層がアートを身近に感じて貰うこと目指しています。

【開催状況】

サビザマ展は、近代日本彫刻を拓いた彫刻家の旧平櫛田中邸で開催されました。今回はその空間の魅力を十分に生かしながら、錆の内面的な美しさを表現することに挑戦しました。実際の錆は使用せず、錆をイメージした映像と音楽、絵画、空間オブジェで世界観を作り上げました。具体的には、極限まで接写し肉眼ではとらえきれない錆の繊細さを捉えた映像

作品や、時が流れ少しずつ経年変化していく錆の様を、独特の旋律で表現した楽曲、伝統的な金銀箔、岩絵の具で、錆のはかなさを大胆に描いた圧巻の36枚の日本画、そして映像と音楽と絵画を一体化させ、全てを包み込む幾何学的な空間オブジェ。これらで構成されたサビザマの非日常の世界が、多くの来場者を魅了しました。また同時開催の3つのイベントも大いに盛り上がりました。さびびとツアーでは、住宅地と町工場などが混在する御徒町にカメラ片手で繰り出しました。さまざまな錆の風景を発見するツアーは、街の新たな魅力に気付くものとなりました。サビオークションでは、今回もとびっきり素敵な錆が集まりました。歓声や笑い声が絶えない中、全ての出品サビが落札される熱気溢れるオークションとなりました。さび de スイーツでは、和菓子と洋菓子の作家が、錆の美しさをスイーツで表現しました。サビザマ



旧平櫛田中邸